

梅雨前線

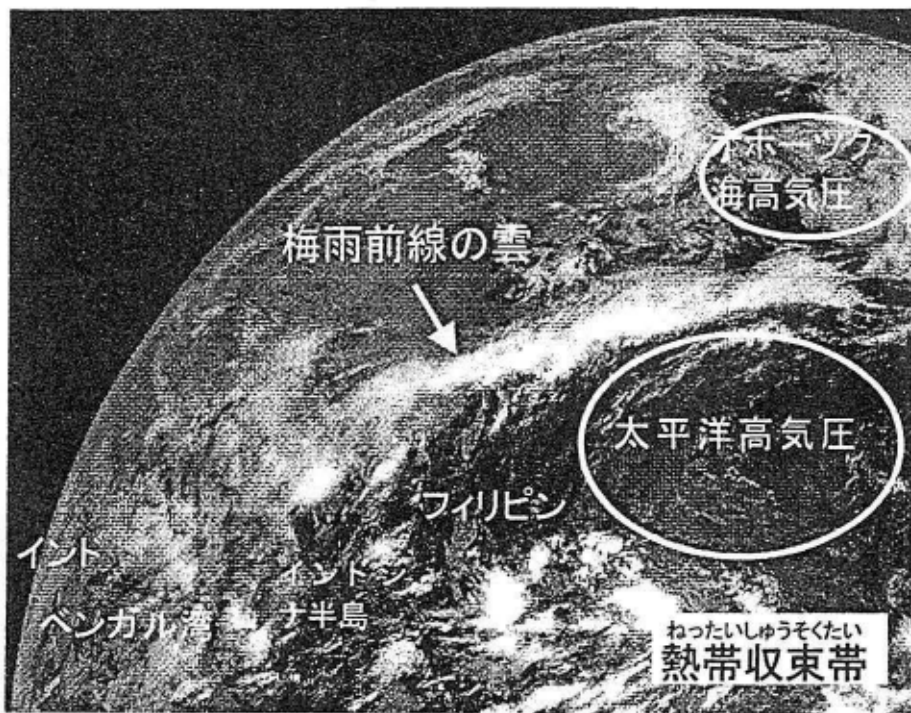
梅雨前線は西へ

今年の梅雨入りは北陸地方で6月7日でした。いつもの年より早かったものの、なかなか雨が降らず、本格的な雨になったのは17日からでした。気象庁では梅雨入り・梅雨明けの日を後日みなおすので、7日という日も変更になるかもしれません。

さて、梅雨は南の暖かい太平洋高気圧と北の冷たいオホーツク海高気圧との間に生まれる梅雨前線によってもたらされるものとして知られています。この時期天気予報で気象衛星「ひまわり」の画像を見ていると、梅雨前線が形や位置を変えながらも白い雲の帯として日本付近にあることがわかります。

ここでは目をもう少し西の方まで向けてみましょう。下の気象衛星画像では、東はカムチャッカ半島から西はインドまで写っています。その中で、日本の東から日本の南部を通り、インドシナ半島のベトナム付近までのびている、東西5000キロ以上にもおよぶ白い帯が梅雨前線の雲です。そのスケールが大きいことがわかります。

梅雨前線の西側では北が大陸になっています。今の時期、大陸は暖かいため、東側と違って南北の気温の違いはあまりありません。西側では前線を境にして南は暖かく湿った空気におおわれ、北は乾燥しているのです。



気象衛星画像提供:(株)I.B.C

この暖かく湿った空気は熱帯収束帯（図の右下にある雲のたくさんある領域で、台風の生まれる場所として知られています）から太平洋高気圧の西のへりをまわって、そしてインドの東にあるベンガル湾から南西風として、運ばれているものです。日本に梅雨をもたらす梅雨前線が地球規模の大気の運動によってつくられているというわけです。

この大量に運ばれる暖かく湿った空気によって西日本では大雨になることがあります。

梅雨前線と大雨

昨年しゆんの夏は天候が不順で、北陸ではついに梅雨明けがありませんでした。そして、前線が新潟から日本海・朝鮮半島にかけて停滞していた8月3日から8日にかけて新潟県を中心にして大雨になりました。特に新潟市では3日から4日にかけて、1時間雨量で77mm、合計雨量が300mmをこえるという大雨でした。このため新潟市を中心にして15,000戸が浸水の被害にあいました。都市に大雨が降ると被害が大きくなります。富山でも7日の朝、1時間雨量55mmの大雨が降り道路の損壊・冠水かんすいの他、交通にも障害しょうがいが出ました。この時、あまりの雨の強さに車の中から前が見えなかったことをおぼえています。

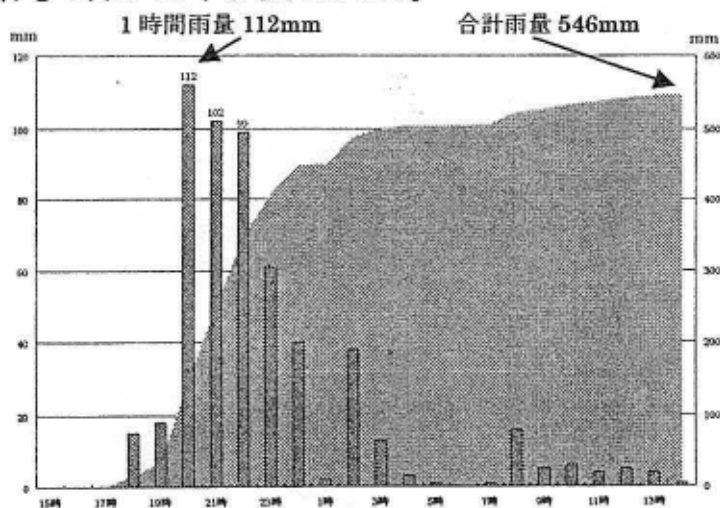
さて、ふつうの年の梅雨明けは北陸では7月20日頃ですが、その前に大雨の降ることがあります。1982年7月23日～24日にかけて長崎では一時間雨量112mm、合計雨量が500mmをこえる大雨になりました。この大雨による洪水、土砂くずれ・崖くずれなどによって299名もの方が亡くなくなりました。

また、この時、長崎市長与で記録した1時間雨量187mmは今でも日本の記録になっています。

これからの時期、強い雨が降り続くとき、雷鳴や稲光を見たら大雨になるかもしれません。

そういうときは気象の情報に十分注意を払ってください。

（吉村博儀）



1982年7月23日15時～24日14時の長崎市での1時間降水量と合計雨量の変化



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)
ホームページ <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成11年7月1日発行